

# コーチング解体新書

～やる気を引き出す源泉を探る～

その16 目先のゴールにとらわれない



猪俣 恭子

中央大学文学部卒

卒業後足利銀行に7年間勤務。窓口業務を経て、人事部研修グループで行内研修の企画・運営および講師を担当。結婚を機に退職してからは、実家の印刷会社に従事する一方、パソコンスクール講師として教育活動を行う。2004年からはコーチングを用いた社内の人材育成を手掛け、「良質なコミュニケーションが実現されている現場こそがビジネスの成功をうむ」と実感し、2006年Coaching Press株式会社を設立、代表取締役として現在に至る。

財生涯学習開発財団認定マスターコーチ

先月2日（月）日本経済新聞夕刊で、プロゴルファー石川遼君の取材記事に思わず目がとまりました。

昨シーズンは日本プロスポーツ選手史上最年少で1億円突破、賞金ランク5位という結果の彼でしたが、この輝かしい1年の間には、3週連続予選落ちという時期もありました。この局面を遼君とコーチのお父さまは一体どう捉えていたのでしょうか。記事はこう続きます。「5月に4戦連続予選落ちしても落ち込みはしなかった。父も『予選を通るだけならアプローチ、パットに力を入れるが、目先のことだけを考えたゴルフじゃいけない。秋には優勝争いを目指している。』まずは土台固め。」なるほど、だから結果が出るんだと、思わずその箇所にアンダーラインを引きました。

目指すゴールが予選突破なのか、それともその先の優勝争いなのか。確か予選落ちが続いた時は、「やっぱりまだ早いんじゃないか。」「そう簡単に勝てるものじゃない。」「将来を期待されているけど、このまま終わるんじゃないか。」という声もあったように記憶していますが、そんな外野の声もなんのその。彼らはそれらに決して振り回されていなかったのです。自分たちが目指すべき真のゴールは秋の優勝争い。それを信じて、優勝争いできるレベルと今の状態のギャップを明確にしつつ、本当に取り組むべきことに集中してきたのでしょうか。この「目先のゴールにとらわれない。」ということは、些細なことのようにですが、成功者たちに変わらず共通している法則だと思います。

例えば私のようなコーチを生業としている者には、登竜門として（財）生涯学習開発財団認定コーチ資格試験があります。ですが、最近合格者から立て続けに「この試験に合格するまでは、自分でもよくやるなと思うぐらい頑張った。でも、合格したら気が抜けたのか、その後、コーチングに熱が入らなくなった。クラスの受講もまるで消化試合のよう。どうしてだろう

…。」という声を聞きます。これは、遼君でいえば、予選突破がそのままゴールになっているのと同じです。他にはオリンピック選手が金メダルをとることにエネルギーを集中し、いざメダルをとってしまうと次に何を目標せばいいのかわからずに、迷走してしまうことも同じといえるでしょう。これは本当にもったいない。自分が何を目標して、どうありたいのか、何を手にしてやりたいのか、ゴールの先が明確になれば（これがビジョンといわれるものなのです）、今取り組んでいることが将来につながっていると実感でき、この実感こそが人を継続して成長させる大きな原動力になっていくのだと思います。

もちろん私も迷うことはあります。しかし、そのたびごとにゴールの先を思い起こします。それは「コーチとして関わった人たちが、将来の日本を担う人に成長していくこと。」この言葉は確実に私の向かうべき方向性を明らかにし、モチベーションを上げてくれています。今、女性対象のキャリアデザイン研修の企画立案、研修資料を作成しているところですが、研修が開催できれば満足となってしまうと、それは目先のゴールにとらわれることと同じ。そんな自分に問いかけているのは、「この研修の参加者に私はどんな影響を与えたいのか。そして研修参加後、どんな変化にチャレンジしていったらいいのか。また、参加者自身が周囲の人たちにどんな影響を与えていく人になってほしいのか。」それらを明確にイメージしながら、そして、参加者全員が将来の日本を担う人にまで成長してくれることを夢描きつつ、目の前のタスクに丁寧に取り組んでいます。

目先のゴールにとらわれず、その先のゴールを見据えていく。ゴールは終点ではなく通過点。この考え方は間違いなく、私たちの思考と行動を、効率よく豊かにスピードアップさせてくれることでしょう。



コーチングプレス株式会社

〒336-0021 埼玉県さいたま市南区別所6-17-310 電話 048-863-8914 FAX 020-4665-3162

<http://www.coaching-press.com/>（「コーチング解体新書」バックナンバーも掲載中!!）